

東京光音電波(株)4CP-2508-Sの応用例

■ 定インピーダンス接続

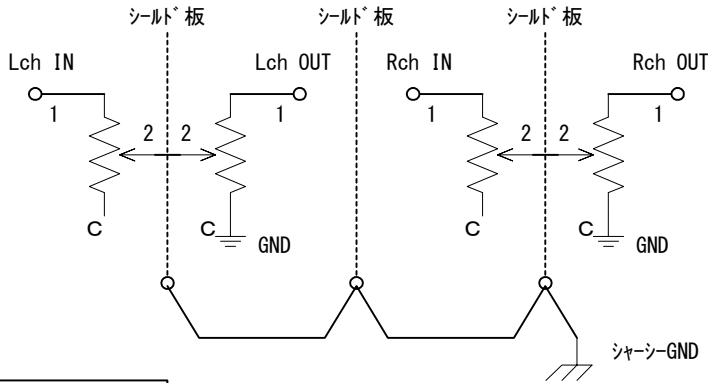
4ch用のVRを高音質な2chVRとして使用する方法です。

ボリュームの位置に関係なく、入力側と出力側双方からみたGND基準の抵抗値がほぼ一定になります（10KΩのVRは常に10KΩ）。

音質的には音量を上げた時と絞った時の音質差が少なくなり、クリアで抜けの良い音を楽しめます。

なお、この接続で定インピーダンスになるのは、東京光音電波の音量調整用CPボリュームの中では、抵抗体の構造上、2CP-2508-S型と4CP-2508-S（旧型名4CP-2500-S）型のみとなります。

配線図



例：VR-BOX 実体配線図

